

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



北岡文雄 《羅臼岳錦秋》

1989年 木版・紙 39.7×55.0cm (北海道立近代美術館蔵)

北岡文雄（1918～2007）は、日本を代表する版画家の一人である。日本各地の風景を題材とするが、北海道は、特に思い入れ深い場所であった。夫人が札幌出身だったため、結婚以降は毎年のように来道し、1年あまりのパリ滞在から帰国したときには、一時、札幌で夫人の実家に仮寓していた。北海道は、遅い春が訪れると一斉に花が咲き、短い夏の後に秋が来てすぐに長い冬となる。北岡は、そうした北海道の自然や人々から多くを学んだと語っている。

北海道をテーマとした作品には、冬景色やさびれた漁村など北国の厳しい自然を描いたものも多いが、こ

こでは知床半島にある羅臼岳の紅葉が題材となっている。緑の常緑樹の間から鮮やかな姿をのぞかせる赤、黄、オレンジなど色とりどりの紅葉。写実性と装飾性かねそなえた北岡版画の特徴が遺憾なく発揮されている。

平成19年、北岡が晩年まで手元においていた版画76点、版木3点が、北海道立近代美術館に寄贈された。当館は、すでに90点以上の北岡作品を収蔵しており、新たな作品が加わって、版画家北岡文雄の初期から晩年までの画業を所蔵品によって俯瞰することが可能になった。

(北海道立近代美術館主任学芸員 佐藤由美加)



「季語」のみえる風景

— 浮世絵から〈道産子追憶之巻〉まで



北海道立近代美術館 主任学芸員 井内 佳津恵

「季語」とは、俳句などによりこまれてその句の季節を示すための語です。たとえば、桜や楓、雪や梅雨など、その言葉によって、誰もがある特定の季節を思い浮かべることができる、そんな役割をもつ言葉です。



寺崎 広業
〈歳の市〉
1898 (明治31)年

「歳の市」という年中行事が主題です。注連縄や箒といった歳の市ならではの商品が描きこまれているだけではありません。お供を連れた上品な婦人、股引姿の若い男、洋装の紳士、きょうだ

日本の美術にも、四季のうつろいに託してさまざまな情感を表現するという伝統があります。それぞれの季節ならではの自然や生活のありさまや、年中行事などをモチーフとすることで、生活実感がかきたてられ、深い共感へと導かれます。歌川国貞の浮世絵に、その例を見てみましょう。〈川辺のほたるがり〉にあらわされているのは、闇を舞う蛩、団扇、扇、美女のはだけた胸元、すずしげに川風にそよぐ草。「夏」を感じさせるモチーフがゆたかに盛り込まれています。

一方、寺崎広業〈歳の市〉は、正月用品を商う「歳の市」という年中行事が主題です。注連縄や箒といった歳の市ならではの商品が描きこまれているだけではありません。お供を連れた上品な婦人、股引姿の若い男、洋装の紳士、きょうだ

いを連れた老翁、威勢のよい口上で客を呼び込む売り手など、登場人物それぞれの装いや表情を巧みに描き分けることで、さまざまな階層の老若男女が集う、市の喧騒までもが、ありありと思ひ浮べられます。また、色彩やかたちそのものが訴えかける力を存分に引き出すことで、季節感をゆたかに喚起する試みもあります。

片岡球子〈初夏〉では、咲き乱れる花に加え、着物の紺、背景の黄色が画面に華やかさを添えています。多様な色彩が競い合うさまは、そのまま、夏という季節の活力をほうふつとさせます。

一方、木田金次郎〈夏の岩内港〉は、どうでしょう。作品名に「岩内港」とあるので、画面を見ながら、このかたちが船体、この部分がマスト…などと、

思い浮かべることが出来なくともありません。しかし、作者は、モチーフの再現と輝かしい陽光の中に活気を見せる港の雰囲気、赤、

歌川 国貞
〈川辺のほたるがり〉





岩橋 英遠〈道産子追憶之巻〉1978-82(昭和53-57)年(部分)

青、黄などの鮮やかな色彩の躍動するような筆致によってせまろうとしているのではないのでしょうか。

また、岩橋英遠へ道産子追憶之巻では、約30mの長大な画面に、作者のふるさと・江部乙の四季の移ろいが描かれています。北海道の野生の動植物に加え、花盛りのリンゴ園、したたるような緑の夏の草刈場、稲刈りのあとのハサかけなど北の地の農作業が、季節を告げる重要なモチーフとして取り上げられています。それは、青年期に上京するまで、農業に携わる生活をすごした英遠にとって、こころと体にしみこんだようなイメージだったのではないのでしょうか。

本展では美術作品における季節感の表現に注目し、絵画、版画、工芸など幅広い分野から、季節感ゆたかな作品を紹介いたします。



木田 金次郎
〈夏の岩内港〉
1960(昭和35)年

片岡球子〈初夏〉
1956(昭和31)年



これくしよん・ぎやららいい
「季語」のみえる風景

2008年9月13日(土)
〜11月29日(土)

休館日

月曜日(9月15日、10月13日、11月3日、24日)をのぞく、9月16日、10月14日、11月25日の各火曜日(祝日の振り替え休館)。

開館時間

午前9時30分〜午後5時(入場は午後4時30分まで)、9月中の金曜日は午後7時30分(入場は午後7時まで)。

観覧料

一般500(410)円
高大生250(170)円
※()内は10名以上の団体料金、65歳以上、心身に障がいのある方、中学生以下等は無料。高校生は毎週土曜日は無料。
11月1日〜7日の芸術週間は、これくしよん・ぎやららいいは無料。

響け大空へ 金子卓義の書

10月12日(日)～11月30日(日)

北海道立函館美術館学芸員 齊藤 千鶴子



「凸凹 東西百世メートル」 1999年 個人蔵

金子卓義は、北海道松前町出身で文化勲章受章者である金子鷗亭（一九〇六～二〇〇二）の次男として東京に生まれましました。幼少の頃から筆墨に親しみ、大学入学後は父・鷗亭を師として書を本格的に学び、その後は日展初出品初入選、毎日書道展毎日賞受賞と順調に歩を進め、二九歳で書道研究「洪

函館美術館では「東洋美術と書」のコレクションに関連して、これまで毎年現代書の企画展を行ってきました。現代の書は、漢詩や漢文を題材にした〈漢字〉、和歌や俳句などを流麗に書く〈かな〉、漢字かな交じりの現代文を題材にした〈近代詩文書〉や〈調和体〉、文字の可読性に捉われない表現を目指す〈前衛書〉など、いくつかのジャンルに分けることができますが、筆墨による手書き文字を見慣れなくなった今日では、たとえ現代の書であっても「読めないから難しい」といったイメージをもつ方は少なくないようです。

たしかに、書をスラスラと読むことができれば、鑑賞の楽しさは広がるかもしれない。しかし、たとえ読めなくても書かれた文字の姿（大きい・小さい・太っている・やせている、など）や表現の工夫（激しい・か弱い・重そう・軽そう・格好つけている・ひよっひよっとしている、など）なら、見て感じ取ることもできるのではないのでしょうか？

本展では、書を伝統芸術という狭義の世界に閉じ込めず、現代に生きるアートとして表現したいと考えていた書家・金子卓義（一九四三～二〇〇六）の作品をご紹介します。

鳳社」を主宰し後進の育成にも努めました。当初は鷗亭の提唱した〈近代詩文書〉を中心に書風にも父の影響が見られますが、四〇歳代半ばから毎年中国各地を訪ねて古典の名跡にふれ、その知見を糧として独自の書風を築き上げていきます。

二〇世紀以降、中国西域の砂漠地帯からは木簡・竹簡など古代文字史料が大量に出土していますが、卓義はこうした地域を幾度も踏査したり、数千年前に書かれた肉筆文字からインスピレーションを得て、ダイナミックな書風を展開しました。さらに、デザイン感覚に優れた「甲骨文」（獣骨や亀甲に刻まれた文字）や「金文」（青銅器など金属に鑄込まれた文字）を用いて、今世紀に進行した古文字学や新出土史料の研究成果を作品に盛り込むなど、書における現代性を追求した制作に情熱を傾けました。平成一五年には古代文字の変遷と司馬遷の『史記』をテーマに個展を開催し、毎日芸術賞を受賞。今後の飛躍を期待されていました。平成一八年に六三歳で急逝しました。

生前最後の個展「史記を書く」の出品作を中心に、初期から晩年まで六三歳の作品で卓義の書業を回顧します。モノをかたどった象形文字などが随所に見られる作品群は、絵画を見られるように「読めなくても楽しめる」うえに、私たちの生活に切り離せない「漢字」の成り立ちや変遷の歴史について知らず知らずのうちに鑑賞体験することにもなるでしょう。



「日月」 1995年 北海道立函館美術館蔵

MUSEUM CALENDAR

2008.9～2009.3

美術館の特別展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	7/12 ～ 9/4 レオナルド・フジタ展	9/13～11/7 21世紀の大発見 よみがえる黄金文明展 ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝	11/15～11/23 読売書法会創設 25周年記念特別展 「北海道を 創った 人々」展	12/9～1/25 A★MUSE★LAND TOMORROW 2009 ANIMAL FANTASY イヌイト・アート&動物たち	2/7～4/12 セザンヌ主義展		
美三岸好太郎美術館	6/20 ～ 9/7 三岸節子の世界 (第2期)	9/13～10/26 鳥海青児と 三岸好太郎	11/1～1/18 三岸の魅力再発見! 素描から《飛ぶ蝶》まで		1/23～3/27 旅愁 ロマンチストが見た風景		
旭川美術館	9/6～10/5 「日本の わざと美」展 重要無形文化財と それを支える人々	10/13 ～ 10/19 毎日書道展 第60回記念 毎日現代書 巡回展 旭川展	10/25～1/21 風景劇場 空間に繰り広げられるドラマ		1/28～4/12 一ノ戸ヨシノリ展 光と水ー異空間へのアングル		
函館美術館	7/20～9/23 トンちゃん アート展 ハコビてB00!	10/1 ～ 10/5 全道展 第10回 函館地区 記念展	10/12～11/30 響け大空へ 金子卓義の書		12/6～3/22 三箇三郎展		
帯広美術館	6/20 ～ 9/3 五味太郎 作品展 絵本の 時間	9/12～11/12 もじ・モジ・文字展 描かれた文字・記号と美術		11/21～1/21 フロンティア 道東美術の現在		1/30～3/25 絵画と写真の交差	
釧路芸術館	9/13～11/13 長倉洋海写真展 微笑みの降る星		11/23～1/18 棟方志功展 わだばゴッホになる		1/27～3/29 コレクションギャラリー		
札幌美術館の森	7/12 ～ 9/15 ジブリの 絵職人 男鹿和雄 展	9/21 ～ 9/28 JTCテキ スタイル の 未来形 2008 札幌展	10/5～11/16 國松明日香展 風、水面ふるわし、そよぎゆく光		11/22～1/25 ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション展		1/31～3/29 見えるもの⇄見えないもの イマジネーションのちから
札幌彫刻美術館	8/30～10/13 北の彫刻展 2008 心の中の自由な世界		10/18 ～ 11/3 貸館	11/8～3/29 やさしさに包まれて 本郷新の母子像			

平成20年度移動美術館

ー北海道立近代美術館・帯広美術館コレクションー

- ◎9月17日(水)～21日(日)
足寄町民センター 多目的ホール
TEL 0156-25-3188
- ◎9月24日(水)～30日(火) ※9月29日(月) 休館
様似町中央公民館文化ホール
TEL 0146-36-2521

入場
無料

北海道には現在、近代美術館、三岸好太郎美術館がある札幌をはじめとして、旭川、函館、帯広、釧路の各地に計6つの道立美術館・芸術館があります。それぞれが特色あるコレクションを持ち、地域に根ざした活動を展開しています。道内各地を巡回する移動美術館は、この6館のコレクションを広く道民に紹介するものです。

近代美術館

A★MUSE★LAND TOMORROW 2009 ANIMAL FANTASY イヌイト・アート&動物たち

二月九日(火)～二月二十五日(日)

イヌイト・アートは、一九五〇年代からカナダ人の芸術家ジェイムズ・ヒューストンの尽力によって国際的に魅力が知られるようになり、その民族的な素朴さ、宗教的でファンタジックな表現、モダン・アートの造形は、世界の人々に衝撃を与え、そして魅了しました。この展覧会は、様々な野生動物の姿や動物と人間との関わりを表現したイヌイト・アートの彫刻、版画、工芸の世界に焦点をあて、その造形の魅力を紹介します。さらに、絵画・版画・彫刻など各分野の現代作家を展覧します。

家によるさまざまな動物表現をあわせて展示し、動物をテーマとした美術表現の可能性をさぐるものです。素朴な表現から、ポップ・アートの新世界、そして幻想的な作品に至るまで、多様な動物表現に親しむとともに、その奥にある人と自然の関係に思いを馳せていただければと思います。

また、美術鑑賞や創作の魅力を子供たちにも広く伝えるため、会期中、学校と連携して動物をテーマとした教育プログラムを展覧します。



イヌイトの版画《Jessie Oonark作 ムナグロ》
北海道立北方民族博物館蔵

三岸好太郎美術館

鳥海青児と三岸好太郎

九月三日(土)～十月二六日(日)

鳥海青児(一九〇二～一九七二)は、神奈川県平塚生まれ。一九二四年の春陽会に入選し、以後、渡欧を経て油彩画による表現の可能性を探究し続け、重厚なマチエールと深いある色彩で独自の造形世界を築いて、日本洋画史に異彩を放つ存在となりました。

三岸好太郎(一九〇三～一九三四)は北海道札幌生まれ。中学卒業後に上京し、一、二三年に春陽会に入選。その後独立美術協会の創立に参加して、新傾向の絵画思潮を積極的に取り入れ、画風のめまぐるしい変転の末、三二歳で夭折しています。



鳥海青児《黄色い人》1956年
平塚市美術館蔵

鳥海青児作品と当館の所蔵する三岸好太郎作品、及び資料等などの展示を通じ、二人の画業と交流を紹介します。



三岸好太郎《大通教会》1928年
北海道立三岸好太郎美術館蔵

春陽会への参加を通じて知り合った二人は、若手作家のグループ「麓人社」での活動を展開し、また一九二八年、三岸の故郷である北海道に一緒に旅行をして札幌で展覧会を開催するなど切磋琢磨しながら交流を深めました。本展は、平塚市美術館などの所蔵する鳥海青児作品と当館の所蔵する三岸好太郎作品、及び資料等などの展示を通じ、二人の画業と交流を紹介します。

旭川美術館

一ノ戸ヨシノリ展

光と水―異空間へのアングル

一月二八日(水)～四月二日(日)

一ノ戸ヨシノリ(一九三四年、上砂川町生)は、旭川在住の美術家です。一九五〇年代初めに北海道アンデパンダンに出品し、一九五五年にグループ「黄土」を結成。以後、旭川の前衛美術運動の中核として、また北海道内外の現代作家グループに参加しながら、精力的な活動を繰り広げました。自らの制作では抽象絵画から出発し、一九七〇年代には鏡を用いて虚と実の交錯のなかに社会批評を込めたインスタレーションを発表、注目を集めました。一九八〇年代からは水や土、ネオン管を用いたインスタレーション

ションを室内や屋外で展開し、自然と人工という異質なものの出会いによる空間の表現を追求しています。

熱い前衛の魂を抱いて先鋭な歩みが続けてきた一ノ戸ヨシノリ。本展では、その世界を初めて総合的に紹介します。



《WATER WORK '93U-2》1993年

函館美術館

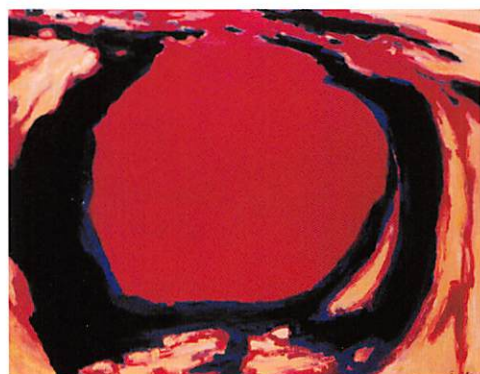
三箇三郎展

二月六日(土)～三月二日(日)

油彩画家・三箇三郎(一九二六年函館生)は、戦後まもなくから赤光社展、全道展、行動展などを主な活躍の場として、六〇年以上にわたり函館を拠点に制作を続けてきました。初期の風景表現にはじまり、身近な事物などから着想しつつ抽象化を図った制作、そして北海道の自然を見つめて独特の構成と色彩による心象的造形へと、多様に作風を変遷させながら、独自の画業を展開しています。

本展では、八〇歳をこえた現在も意欲的な制作に取り組む画家の、初期からの代

表的な作品により、独創を深める個性的な絵画表現の特質と魅力を紹介します。



三箇三郎《還流》1987年

帯広美術館

もし・モジ・文字展

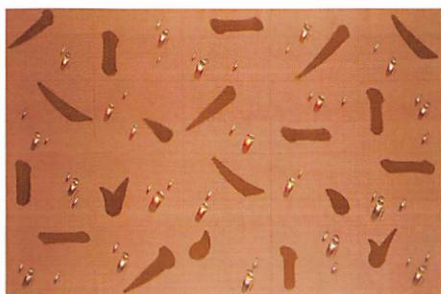
―描かれた文字・記号と美術―
九月二日(金)～二月二日(水)

美術に関わる文字の表れ方や役どころは時代や作品の目的、テーマなどによってさまざまで、多彩な表現が繰り広げられてきました。絵巻物のように物語の詞書きに即して生み出されるもの、また、広告ポスターのように文字と広告内容を伝えるイメージが一体となって作り出されたもの、あるいは、東洋の書や西洋のカリグラフィのように、文字そのものを表現するものなどもあります。二〇世紀の美術にあつては、文字に含まれる記号としての特性やイメージの伝達機能に着目し、あるいは逆手にとつて、視覚芸術や現実社会の制度への問いかけや矛盾を浮き彫りにする作品も制作されて

きました。

この展覧会では、「絵画と文字」を収集方針に多くの現代美術や書を所蔵する函館美術館の協力を得て、文字と美術をめぐる多彩な作品約一〇〇点を展示します。また、文字作品にまつわる体験コーナーなども設け、

文字と美術をテーマに見ることと造形美術との関わりについて考えます。



金昌烈《解体》1985～88年

釧路芸術館

微笑みの降る星

長倉洋海 写真展
九月三日(土)～二月三日(木)

長倉洋海(一九五二～)は釧路生まれの写真家、フォトジャーナリストです。一九八〇年から世界各地取材し、特に二〇年以上にわたって取材を続けたアフガニスタンや中米エルサルバドルなど、紛争地や平和を取り戻した国々で生活を送る人々の姿を撮影した作品で知られています。彼の写真はカメラを向けられた相手の心情に迫る表現を特徴とするものであり、人々の喜怒哀楽の

姿をとらえた作品の数々は、土門拳賞を受賞するなど高い評価を受けています。また、世界中の大勢の子どもたちと出会い、彼らの豊かな表情に魅かれたことが、新たな表現へ挑む重要なきっかけにもなったといえます。本展では生

きる喜びや誇りにあふれた、たくましい子どもたちの姿をテーマに約三〇〇点の作品を展示し、写真家がみつめた世界の姿をご紹介します。



《踊りの練習を終えたクリカチ族の女の子、ブラジル》2004年

札幌芸術の森美術館

國松明日香展

―風、水面ふるわし、そよぎゆく光―
一〇月五日(日)～二月二六日(日)

國松明日香(一九四七～)は、札幌を拠点に活動する北海道出身(小樽市生まれ)の彫刻家です。札幌市立高等専門学校にて教鞭をとり、厳しさと穏やかさの両面をあわせ持った指導によって、北海道の美術教育の水準を高め、また美術界においては、彫刻の領域のみならず、北海道の美術界全般を牽引する役割を担ってきました。鉄を主な材としたその作品は、人柄をし

洗練された美しさが余すところなく表現されています。網膜に映る「光」と「影」を詩情的にとらえ、軽やかさと重厚さをもつて幾層にも重なる協奏曲のような響き―それこそが、國松芸術の真骨頂といえるでしょう。

本展では、彫刻家としての確立を見せた街並み・人物などをモチーフとしたモニュメント、水面や銀河の煌めきを表現した最近の作品に至るまで、約五〇点を紹介します。



《北北東の風》2000年 北海道立近代美術館蔵

本郷新記念札幌彫刻美術館

北の彫刻展2008

―心の中の自由な世界―
八月三〇日(土)～一〇月三日(月)

「北の彫刻展」は、開館以来北海道を活動の拠点としている作家を隔年で紹介する展覧会です。今回のテーマは、「心の中の自由な世界」としました。

記憶、時間など言葉としてありますが、かたちのイメージは人によって様々です。心の中では、眼に見えないものでも自由に創造することができます。心の中に広がるものにかたちを与え、素材を選び、大きさを決め作品がつくれます。様々な思いがこ

められた作品からは、作家の心の中を垣間見ることが出来ます。

既成概念にとらわれることなく、自由な想像の翼を広げてご覧ください。作家のメッセージが心に響くでしょう。



佐々木秀明《響を聴く》2007年

A・RE・ KO・RE

information

三岸好太郎美術館ミニ・リサイタル

三岸好太郎のミニ・リサイタルは、三岸の作品〈オーケストラ〉にちなんだ音楽会。

音楽家を目指す若い方たちによって、展示室内で演奏されます。

9月からの予定は次の通りです。



ミニ・リサイタル

(いずれも14時開演)

- | | |
|-------|-----------|
| 第142回 | 12月20日(土) |
| 第143回 | 1月24日(土) |
| 第144回 | 2月21日(土) |
| 第145回 | 3月14日(土) |

入館者は無料



会員サービスについて

～ご優待特典～

1. 美術館で開催する展覧会の観覧
ご利用できる館は、近美、三岸、旭川、函館、帯広各美術館と釧路芸術館及び札幌市内にある札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館の8館です。
会員証提示で本人のみ。
2. 近美の売店でのお買い物とレストランは1割引きサービス（ただし、図書、図録を除く）。
3. 当協会企画の国内、海外美術研修旅行は会員料金で優先参加。
4. 会報、展覧会案内などの情報提供（カンドーレ、ミュージアムカレンダー）。
5. 会員親睦のための「つどい」開催。

「増やそう、アルテピア会員！」

アルテピア法人設立30周年記念事業

来年度、当協力は30周年を迎えます。その記念事業を平成21年度の1年間を通じて実施します。

去る7月29日、実行委員会を設立しました。

コンセプトは、①協会のPRと会員増強、②協会の組織強化と拡大、③子どもたちの美術への関心を高めること。

事業内容は今後の委員会（事業部会）で検討されますが、予定されるものとして、①記念パーティの開催、②ミュージアムバスツアー、③絵画の寄贈（近美へ）、④子どもたちへの美術館招待など。

芸術週間 —Art Week—

文化の日を挟んだ11月1日から7日までの1週間は、芸術週間として、期間中、これくしょん・ぎやらりい及び三岸好太郎美術館の無料観覧のほか、アートクラブ等多彩なイベントが催されます。

旭川 リンク・リンク・ミュージアム

旭川市内の美術館、博物館をリンクして、協会会員証の利用による割引制度が、平成20年7月1日（一部11月）から始まりました。

参加施設は次のとおり。

- ①旭川市博物館（H20.11～）
 - ②旭川市科学館「サイパル」
 - ③中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
 - ④井上靖記念館
 - ⑤旭川兵村記念館
 - ⑥川村カ子トアイヌ記念館
 - ⑦北海道伝統美術工芸村（優佳良織工芸館、国際染織美術館、雪の美術館）
 - ⑧三浦綾子記念文学館
- ※割引内容はそれぞれの施設ごとに異なります。

「没後40年レオナルド・フジタ展」をみて



池上 啓一

会場を回つてみて藤田嗣治の偉大な業績の全貌を紹介するに相応しいスケールの大きな展覧会に圧倒された。藤田の業跡を四つつのブロックに分けた会場構成も明快でたいへん理解しやすいと思う。中心はやはり幻の大作と言われる「構図」と「争闘」であろう。画家が大画面に立ち向かう意欲と気迫がみなぎっている。

しかし私が最も関心を持ったのは、アトリエの復元展示であった。奥の壁にキリストを中心としたフレスコ画を配し、手前には長年愛用してきた道具や、手作りの小物、人形や教会の模型などが当時の姿のまま置かれている。実に穏やかで温もりに満ちた空間である。恐らく画家の最も居心地の良い場所であったに違いない。あの傑作の数々もここから生れたことに頷けるような気がしたのであった。

新会員紹介

2008年3月～2008年7月(敬称略)

ご入会ありがとうございます

3月

札幌市 伏黒 由美子
 “ 森 郁子
 “ 武市 顥子
 “ 坂入 浩子
 “ 千葉 光子
 “ 和田 由紀子
 “ 長沼 修
 “ 三好 一雄
 “ バックハウス 和子
 “ 北村 於理恵
 “ 岡部 恵美子
 “ 及川 由美子
 “ 村瀬 隆子
 “ 佐藤 美恵子
 “ 野口 美奈子
 “ 風無 隆夫
 “ 飯田 レナ
 “ 米田 稔
 “ 佐藤 紀和子
 “ 片山 知洋

留寿都村 水野 優子

上砂川町 木村 春枝
 弟子屈町 木村 直樹

4月

札幌市 舘田 孝廣
 “ 横田 和明
 “ 前田 千恵子
 “ 高梨 美幸
 “ 荒川 悠久子
 “ 平藤 すみ
 “ 佐々木 知子
 “ 玉木 夕子
 “ 木下 久則
 “ 渡辺 優子
 “ 池田 ひろ子
 “ 中川 明紀
 “ 倉上 順子
 “ 武蔵 和子
 旭川市 玉木 裕
 “ 笹生 早苗

5月

札幌市 我妻 道子
 “ 大柳 洋子
 “ 相馬 三恵
 “ 丸山 昭子
 “ 加藤 紀志子
 “ 藤原 三枝子
 “ 田中 京子
 “ 北村 清彦
 江別市 家登 美加子
 “ 佐藤 博子
 千歳市 西澤 和谷子
 “ 田中 稔
 苫小牧市 高田 洋子

帯広市 太田 千鶴子

7月

札幌市 松浦 芳博
 “ 倉上 親治
 “ 松浦 憲昭
 “ 依田 英子
 “ 山本 時子
 “ 鈴木 忠信
 江別市 山岡 貞子
 千歳市 野尻 洋子
 函館市 岡和田 暁子
 小樽市 佐藤 壽見子

6月

札幌市 田中 稔
 “ 荒川 恭子
 “ 大滝 千鶴子
 “ 後藤 圭太
 “ 巻 清隆



法人会員紹介

— ご協力まことにありがとうございます —

- (株)北洋銀行 (株)北海道新聞社 北海道電力(株) 北洋ビル管理(株) オンワード樺山福祉共済センター (株)HBA
 国土交通省共済組合札幌管区気象台支部 法務省共済組合札幌法務局支部 サッポロビール(株)北海道本社 北海道銀行
 ホテル・ライフオート札幌 中西印刷(株) (社)北海道私立幼稚園協会 (社)北方圏センター 札幌通運(株)札幌引越センター
 (株)六書堂 岩橋印刷(株) (株)南香園 ナラサキ産業(株)北海道支社 (株)光映堂シーエービー 札幌グランドホテル
 アトリエ・ルートスリー 東海大学旭川校舎 伊藤組土建(株) (財)北海道埋蔵文化財センター 北海道文化放送(株)
 (財)北海道教職員厚生会 トップツアー(株)札幌支店 (株)クリーンリバー 佐藤水産(株) 北海道土質コンサルタント(株)
 ノースパシフィック(株) 北洋システム開発(株) 交洋不動産(株) (株)札幌北洋カード (株)どうしん厚別販売センター
 北海道信用保証協会 北海道総合信用保証(株) (有)内藤表具工房 (株)道新中西販売所 (株)道新サービスセンター
 (株)道新文化センター (財)札幌市芸術文化財団 三菱電機(株)北海道支社 (株)道新スポーツ
 (財)エム・オー・エー美術文化財団北海道支部 (株)札幌銀行 (株)三好商会 北洋ビジネスサービス(株) 大丸藤井(株)
 日本通運(株)札幌西支店 北栄保険サービス(株) JR北海道 近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部 北海電気工事(株)
 (株)ほくせん 札幌通運(株)

(平成20年4月1日現在・敬称略)

平成二〇年度 通常総会の概要

去る五月三〇日北海道立近代美術館講堂に於いて総会が開催され、会長の挨拶に続き、提案の議案について審議された。

吉野会長挨拶要旨

日頃、当協力の諸事業に参画され、美術文化振興のために積極的に活動していることに深く感謝を申し上げます。

昨年度の協力会の活動は、ほぼ計画通りに執行され、会員の皆様、ボランティア活動員の皆様のご努力により非常に充実した活動ができたと考えております。

二一年度には、法人設立三〇周年となる節目の年にあたり、さらに組織の拡大充実に向けていろいろと検討しているところです。

本年度におきましても多くの事業を企画していきますので、今後とも皆様方のご支援を賜りたいと存じます。

審議の概要

議案第一号 平成一九年度事業報告及び収支決算報告について、原案どおり承認可決された。

事業報告の概要

- (収支決算書は別記の通り)
- 一 道立美術館事業へのボランティア活動は、昨年度より一、三〇〇人増の延べ九、二〇〇人となっている。

二 会員証利用による観覧料については、過去三年と比較しても倍以上の高い実績となった。

三 会報「アルテピア」、部内報「あんでな」発行のほか、五年毎に発行するボランティア活動の記録「あゆみ」を発刊した。

四 美術講座については、一九六名の参加があり、内二五名がボランティア活動員として登録された。

五 ジュニア・アートクラブや美術への誘い事業への関心は年々高まっており、特に「美術への誘い」には延べ八五一人(二五回実施)が参加した。

六 学生美術全道展への後援と最優秀作品に賞の贈呈。

議案第二号 平成二〇年度事業計画及び収支予算案について、原案どおり承認可決された。

事業報告の概要

(収支予算書は別記の通り)

事業については、ほぼ昨年と同様の計画となっている。

一 美術講座については、昨年同様実施する。本年度は五月八日から開始、すでに一六五名の参加となっている。

二 美術研修旅行について
*国内旅行(金沢21世紀美術館へ行く三泊四日の旅) 旅行期間 一〇月二八日(火) ~ 一〇月三二日(金)

行程

能登路(金沢・和倉・輪島)美術館めぐり
*海外美術旅行(大英博物館 コッツウォルズ村を訪ねて八日間)

旅行期間 一〇月二日(木) ~ 一〇月九日(木)

三 法人設立三〇周年記念事業の計画立案準備の中の一つとして、ホームページのリニューアルに伴うシステム構築に取り組む。

議案第五号 定款の一部改正について、原案の通り承認可決された。

定款第一八条に規定する理事定数「二五人以上三〇人以内」を「二〇人以上二五人以内」に改正。

議案第六号 役員を選任について、原案のとおり承認可決された。

新役員については、下記「役員名簿」のとおり。

通常総会終了後、近代美術館一階ロビーにおいて、「つどい二〇〇八」大英博物館とコッツウォルズの村々に思いを馳せてII」を開催、ワインを片手に、美術談義に花を咲かせた「つどい」は成功のうちに終了した。

(社)北海道美術館協力会

役員名簿

会長	吉野 次郎
副会長	植村 敏
専務理事	山口 節子
理事	藤井 勇吉
	石黒 勇治
	岩田 泰
	魚住 昌也
	浦田 久
	大菅生 明
	金井 英明
	腰塚 清一
	菅 伸之
	杉本 互
	関川 節子
	高橋 英雄
	谷 紘子
	棟 徹夫
	長峯 慰子
	馬場 昭
	藤井 正治
	和田 壬三
	荒井 善則
監事	安藤孝次郎

(表1)平成19年度収支決算総括表(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	収 入 の 部					支 出 の 部					
	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去	科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去
			売店会計	駐車場会計					売店会計	駐車場会計	
基本財産運用収入	1,500	1,500	0	0	0	事業費支出	61,609,232	10,677,960	34,349,063	16,582,209	0
特 別 収 入	26,943	26,943	0	0	0	管 理 費 支 出	5,910,673	5,910,673	0	0	0
会 費 収 入	11,665,000	11,665,000	0	0	0	特 定 資 産 取 得 支 出	13,026,943	13,026,943	0	0	0
事 業 収 入	56,962,580	1,472,000	34,704,682	20,785,898	0	他 会 計 へ の 繰 入 支 出	300,000	0	12,500,000	2,000,000	-14,500,000
寄 付 金 収 入	0	0	0	0	0						
他 会 計 へ の 繰 入 収 入	0	14,500,000	0	0	-14,500,000						
雑 収 入	63,593	17,039	23,818	22,736	0	当 期 支 出 合 計	80,546,848	29,615,576	46,849,063	18,582,209	-14,500,000
当 期 収 入 合 計	68,733,116	27,695,982	34,728,500	20,808,634	-14,500,000	当 期 収 支 差 額	△11,813,732	△1,919,594	△12,120,563	2,226,425	0
前 期 繰 越 収 支 差 額	31,744,603	5,474,121	20,244,194	6,026,288	0	次 期 繰 越 収 支 差 額	19,930,871	3,554,527	8,123,631	8,252,713	0
収 入 合 計 (B)	100,477,719	33,170,103	54,972,694	26,834,922	-14,500,000	支 出 合 計 (B)	100,477,719	33,170,103	54,972,694	26,834,922	-14,500,000
予 算 額 (A)	88,374,000	31,601,000	50,246,000	21,027,000	-14,500,000	予 算 額 (A)	88,374,000	31,601,000	50,246,000	21,027,000	-14,500,000
差 異 (A-B)	△12,103,719	△1,569,103	△4,726,694	△5,807,922	0	差 異 (A-B)	△12,103,719	△1,569,103	△4,726,694	△5,807,933	0

(表2)平成20年度収支予算総括表(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	収 入 の 部					支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
一 般 会 計	基本財産運用収入	10	2	8	定期預金利息	事業支出	6,041	7,098	△1,057		
	特 別 収 入	50	6	44	美術振興基金利息	美術活動協力事業費	5,215	5,365	150	V活動経費、会報・部内報印刷費、 会員振替料等経費	
	会 費 収 入	10,801	10,518	283	法人、個人会員等年会費	美術講座等開催事業費	713	1,553	△840	美術講座資料作成費・ つどい経費等	
	事 業 収 入	1,356	1,080	276	美術講座受講料・つどい会費等	美術鑑賞研修事業費	62	129	△67	美術研修視察事前研修経費等	
	寄 付 金 収 入	10	10	0		美術優秀創作展事業	51	51	0	協力会費の贈呈経費(商品券)	
	雑 収 入	20	11	9	普通預金利息	管 理 費 支 出	6,166	5,928	238	運営管理費	
	他 会 計 へ の 繰 入 収 入	1,000	14,500	△13,500		30周年記念事業支出	1,000	0	1,000	30周年誌企画事業費	
	当 期 収 入 合 計	13,247	26,127	△12,880		特 定 資 産 取 得 支 出	0	13,000	△13,000	美術振興基金積立預金支出	
	前 期 繰 越 収 支 差 額	3,573	5,474	△1,901		当 期 支 出 合 計	13,207	26,026	△13,819		
収 入 合 計	16,820	31,601	△14,781		当 期 収 支 差 額	40	101	61			
					次 期 繰 越 収 支 差 額	3,613	5,575	1,962			
					支 出 合 計	16,820	31,601	△14,781			
特 別 会 計	売店会計	売上収入等	28,000	30,000	△2,000	売上収入	事業費支出	28,302	29,702	△1,400	仕入、賃金、施設賃借料等
		雑 収 入	20	2	18	預金利息	他 会 計 へ の 繰 入 支 出	500	12,500	△12,000	
		当 期 収 入 合 計	28,020	30,002	1,982		当 期 支 出 合 計	28,802	42,202	△13,400	
		前 期 繰 越 収 支 差 額	8,586	20,244	△11,658		当 期 収 支 差 額	△782	△12,200	△11,418	
		収 入 合 計	36,606	50,246	△13,640		次 期 繰 越 収 支 差 額	7,804	8,044	△240	
会 計	駐車場会計	駐車料金収入	13,000	15,000	2,000	駐車場利用収入	事業費支出	14,357	14,751	△394	管理委託料、土地借上料等
		雑 収 入	10	1	9	預金利息	他 会 計 へ の 繰 入 支 出	500	2,000	△1,500	
		当 期 収 入 合 計	13,010	15,001	△1,991		当 期 支 出 合 計	14,857	16,751	△1,894	
		前 期 繰 越 収 支 差 額	9,897	6,026	3,871		当 期 収 支 差 額	△1,847	△1,750	△97	
		収 入 合 計	22,907	21,027	1,880		次 期 繰 越 収 支 差 額	8,050	4,276	3,774	
内 部 取 引 消 去	△1,000	△14,500	△13,500		内 部 取 引 消 去	△1,000	△14,500	△13,500			
総 合 計	75,333	88,374	△13,041		総 合 計	75,333	88,374	△13,041			

アルテピアのホームページをリニューアルしました！

<http://www.artepia.or.jp>

アルテピアのホームページが生まれ変わりました！
行事やイベント、各部からのお知らせがいっぱい！

アクセス
してね！



つどい2008

5月30日、アルテピア会員のつどいが近美 1F ホールにおいて盛大に開催されました。

「イギリスクラシックの夕べ」をテーマとしたのは、秋の海外美術研修旅行にちなんで。

エルガーの曲、アイルランド民謡、イギリス民謡の演奏、歌唱に古きイングランドを想い、和やかなひとときを過ごしました。



ミュージアム・スクール2008

ミニ・アトリエ「デコ・カード de 夏のおたより」

7月27日（日）から8月19日（火）までの間、ミュージアム・スクール「ミニ・アトリエ」が開催されました。

画用紙に絵を描いたり、シールや色紙を貼り付けたりして、グリーティングカードを作る楽しい工作でした。

同時に、「アート・オリエンテーリング」や「アートレッスン」(8/9.16)、「ワークショップ」(8/1.2)が開かれ、キンピで夏のアート体験を楽しんだことでしょう。



編集だより

- 各美術館を偏りなく紹介し、できるだけ多くの会員の皆様の声を反映させ、写真を増やし、活字を大きく見やすくして、という声に苦悩する日々。今号はいかがだったでしょうか。
- 後半期には、いくつか書や文字についての展覧があるようです。文字の力は怖い。語彙や漢字力、性格までわかってしまうことも。芸術だけでなく普段から美しく丁寧な文字を書くように心がけたいものです。
- “ひとくちメモ”コーナーを設け、開催される展覧会に関しての堅苦しくない、ちょっとした情報をお伝えしていく予定です。どうぞよろしく。
- “会員エッセイ”は、道展会員でもある池上啓一氏にご寄稿いただきました。ありがとうございました。(S)

ひとくちメモ

「江戸の美人画」 近美の浮世絵

491点におよぶ作品は、全て故高橋博信氏による浮世絵のコレクションでした。

御子息の大介氏(帯広市)が「父の遺産をまとまった形で残すことが自分の使命」と、平成16年当館に寄贈されました。

博信氏は生前日本浮世絵協会理事を務め、約30年をかけ収集した作品は、美人画に焦点をあてていることが特徴です。

コレクションは、歌川国貞、歌川国芳、渓斎英泉といった江戸時代後期を代表する作家の優品揃いです。なかでも国貞作「浄瑠璃づくし」は10枚揃いの完全なセットで大変貴重なものです。

江戸の「粋」の美意識に魅かれていたという博信氏の情熱が、道民の文化的財産になりました。

アルテピア新会員募集中！

詳細は北海道美術館協力会(アルテピア)へ 札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025